

## ○ 検疫業務実績

### (1) 那覇港

那覇港における検疫人員数は令和元年までは増加しており、令和元年の人員数は762,102人であったが、令和2年は63,996人と大幅な減少（前年比91.6%減 図1参照）となった。船舶検疫数は令和元年までは526隻から592隻を推移していたが、令和2年は366隻であった（前年比30.4%減）。その原因は、令和2年2月以降において、新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ客船の入港が停止となったためである。特に、令和元年から令和2年のクルーズ客船実績の減少は顕著で、検疫人員数は755,892人から58,055人（92.3%減）、検疫船舶数は193隻から19隻（90.2%減）となったが、令和5年はクルーズ客船の寄航再開となり検疫船舶数は41隻であった（図2参照）。

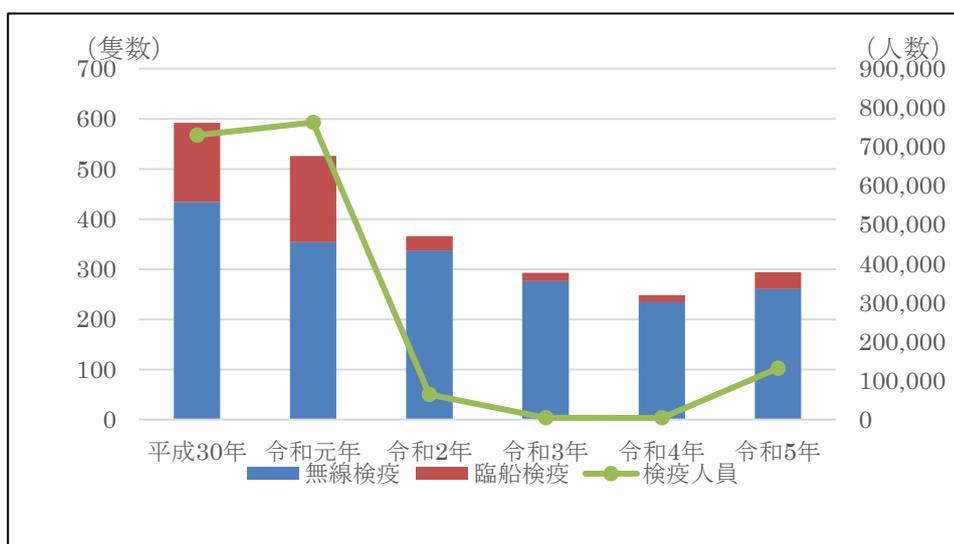


図1 検疫船舶数及び検疫人員（クルーズ客船含む）（那覇港）

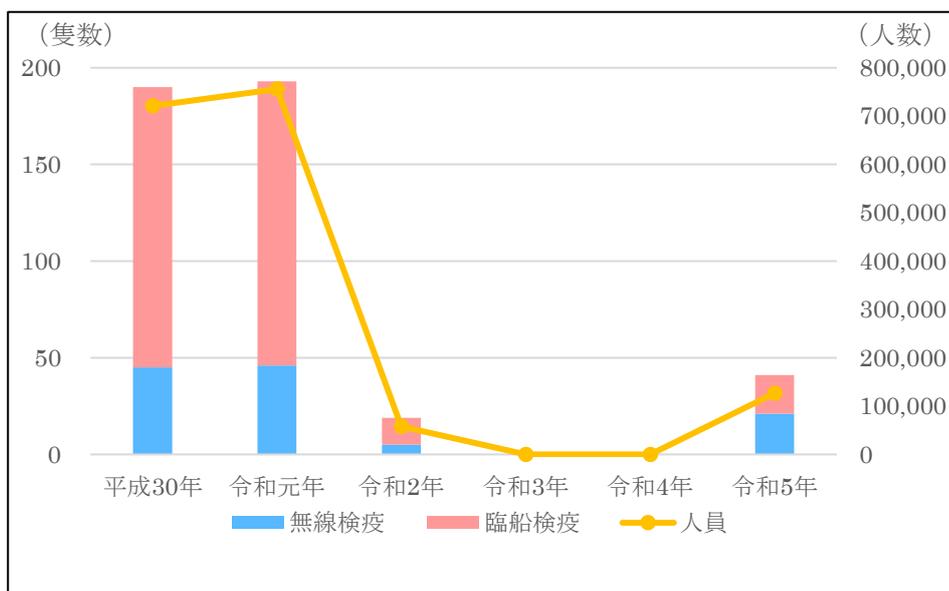


図2 クルーズ客船検疫の推移（那覇港）

## (2) 金武中城港

金武中城港における検疫人員数は平成30年の26,520人、令和元年の45,466人と大幅に増加していた。一方、令和2年は大幅に減少し、8,381人となり（前年比81.6%減）、令和3年以降は2,000人前後となった。船舶検疫数は平成30年から令和4年においては大幅な変動はなく82~97隻の範囲内で推移した（図3参照）。検疫人員数減少の原因は、令和2年2月以降において、新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ客船の入港が停止したためである。特に、令和元年から令和2年のクルーズ客船実績の減少は顕著で、検疫人員数は43,638人から6,133人（85.9%減）、検疫船舶数は17隻から1隻（94.1%減）となった（図4参照）。

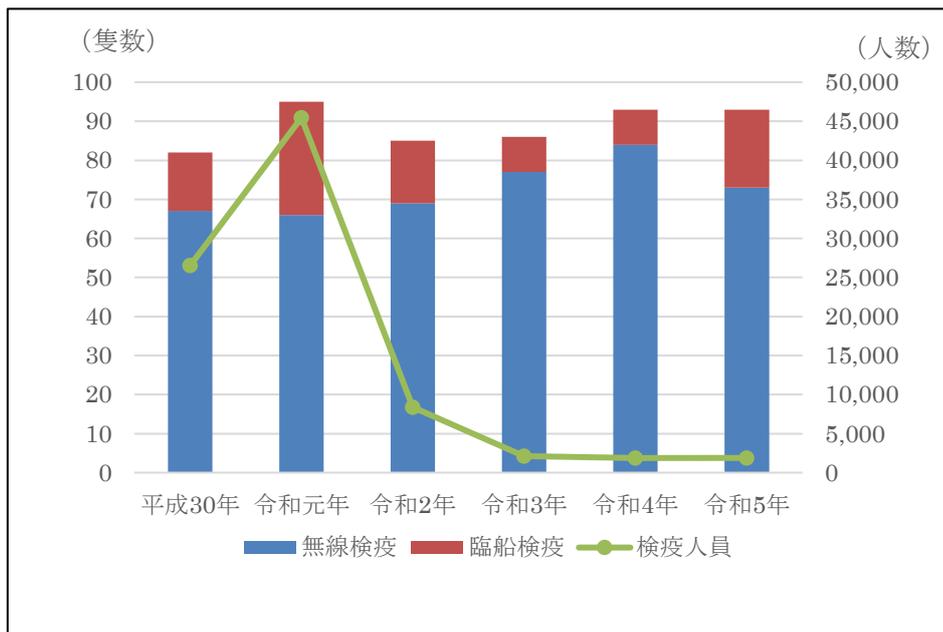


図3 検疫船舶数及び検疫人員（クルーズ客船含む）（金武・中城港）

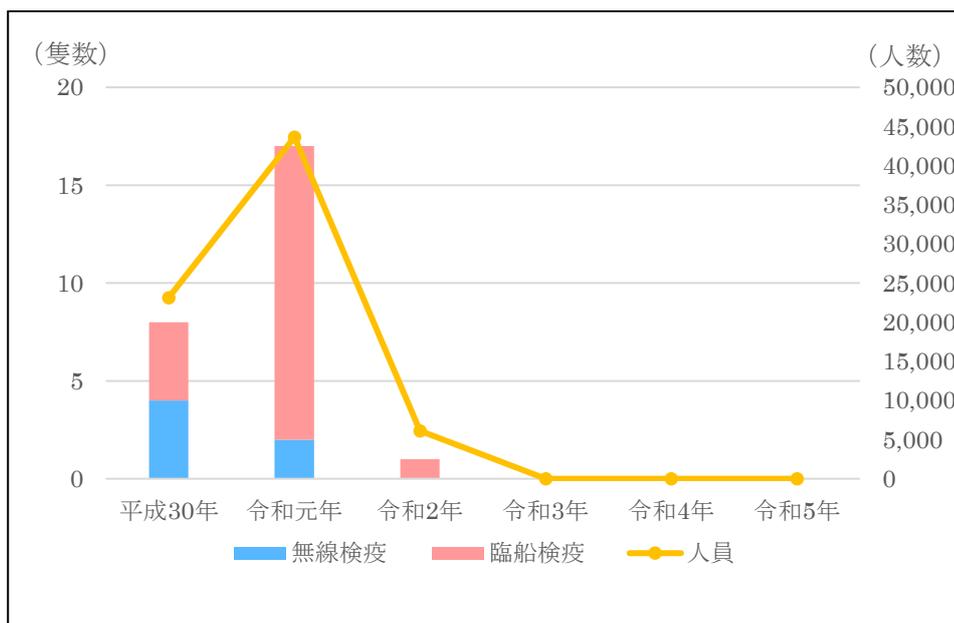


図4 クルーズ客船検疫の推移（金武・中城港）

### (3) 石垣港

石垣港における検疫実績については、台湾－中国本土間での直接の運行が禁止されているため、第3国経由の手続きを目的に検疫を実施するクリアランス船の入港が多く、令和4年においては検疫船舶数の過半数を占めている。また、クルーズ客船については、主に台湾から来航したものであり、平成27年から令和元年までは年間70隻～90隻の実績であったが、令和2年3月以降においては、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ客船の入港が停止していた。令和5年から運行再開している（図5及び図6参照）。

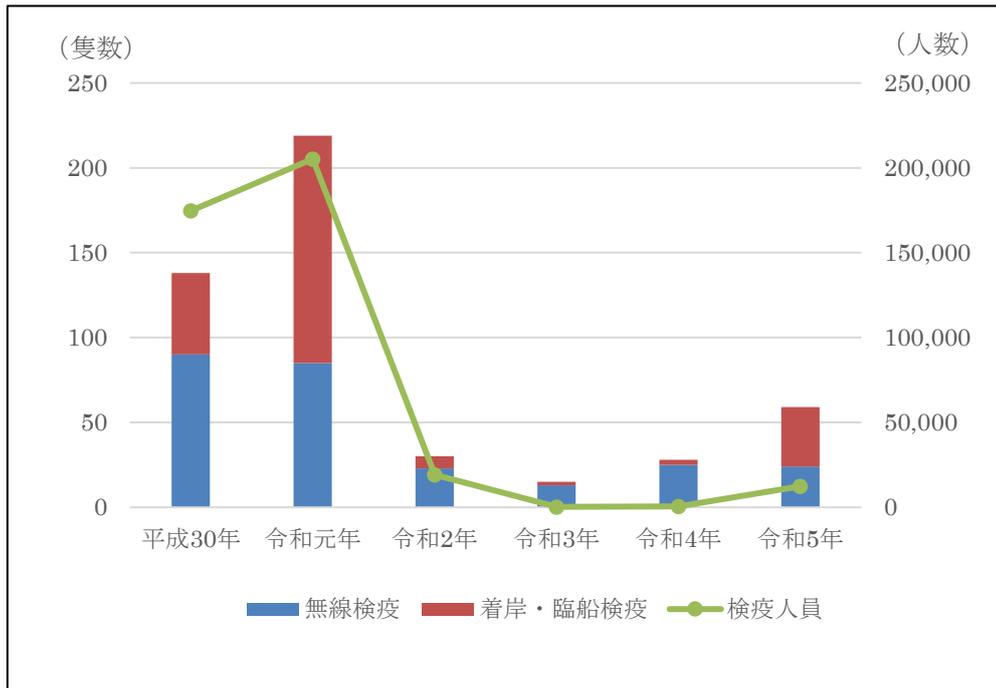


図5 検疫船舶数及び検疫人員（石垣港）

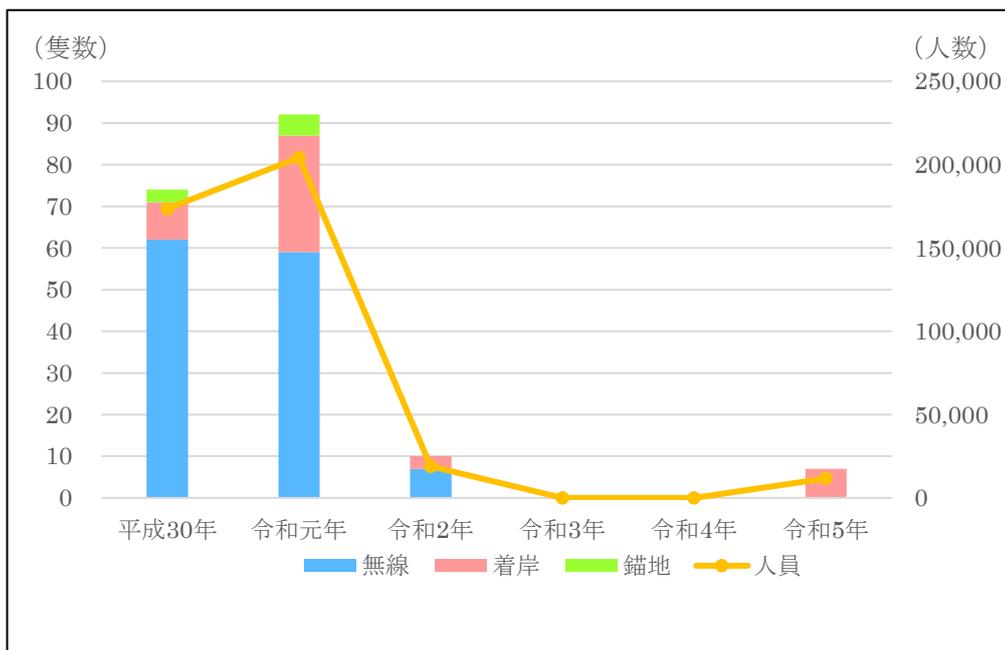


図6 クルーズ客船検疫の推移（石垣港）

(4) 平良港

平良港における検疫人員数は令和元年まではクルーズ客船の入港により年間 16 万人前後まで増加していたが、令和 2 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ客船の入港が停止したため、臨船検疫数及び検疫人員数は激減するものとなった令和 5 年はクルーズ客船の入港が再開したことに加え、宮古島ヨットクラブ主催の台琉友好親善国際ヨットレースが開催されたため、着岸検疫の実績が大幅に増加した。(図 7 及び図 8 参照)

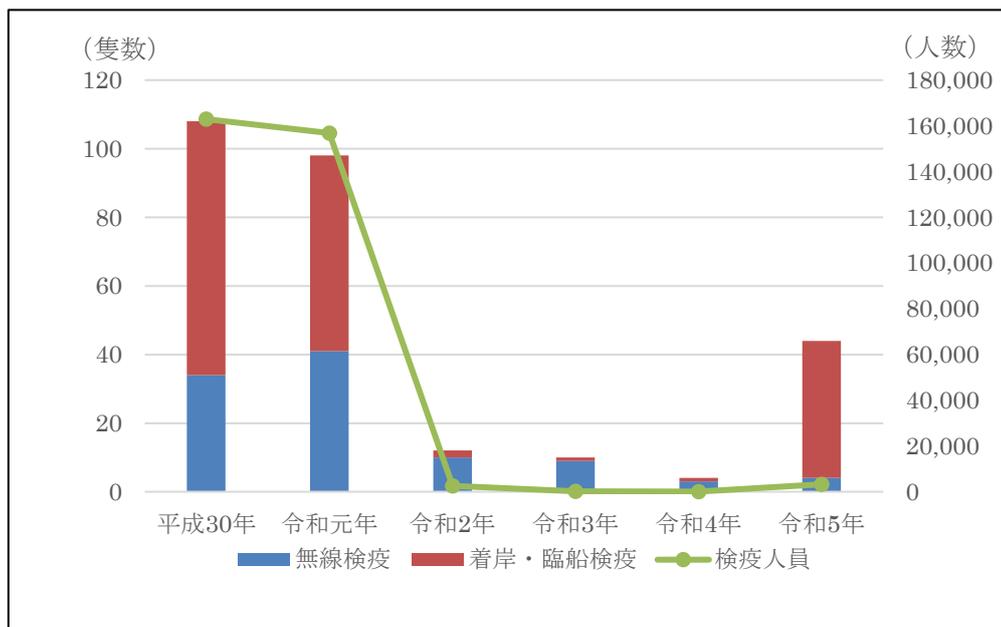


図 7 検疫船舶数及び検疫人員 (平良港)

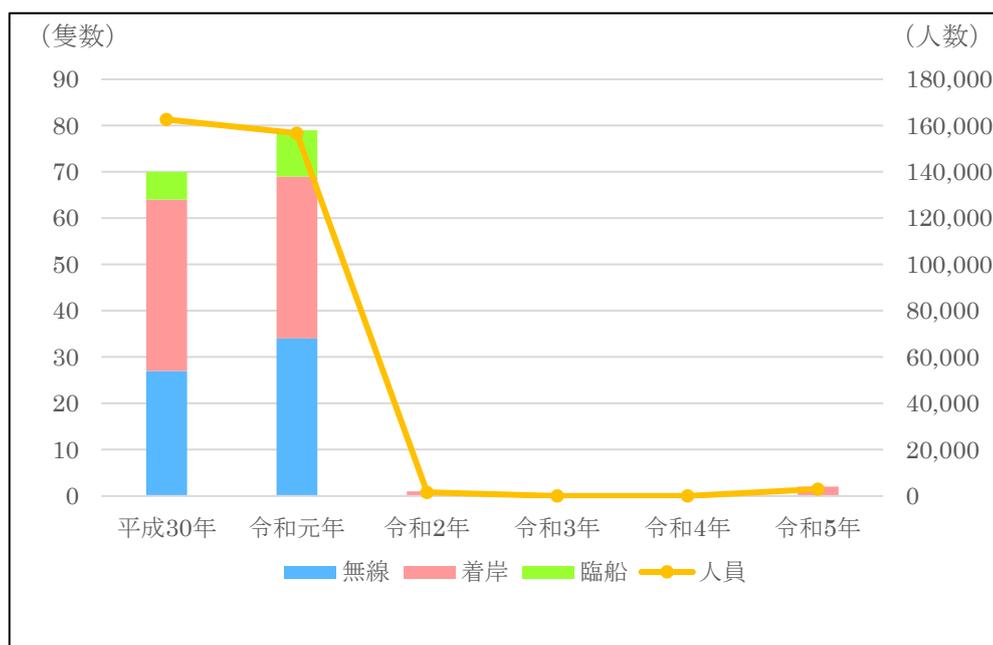


図 8 クルーズ客船検疫の推移 (平良港)

(5) 航空機の検疫実績 (航空機数・検疫人員)

航空機の検疫実績 (平成30年～令和5年)

検疫所名	年	航空機数(機)	検疫人員(人)
那覇空港検疫所支所 (那覇空港)	平成30年	12,470	2,025,966
	令和元年	12,386	1,937,747
	令和2年	1,907	223,585
	令和3年	65	790
	令和4年	498	56,786
	令和5年	5,419	924,412
石垣出張所 (新石垣空港) ○非検疫飛行場	平成30年	308	47,231
	令和元年	324	52,746
	令和2年	22	2,385
	令和3年	3	27
	令和4年	2	17
	令和5年	10	543
平良出張所 (下地島空港) ○非検疫飛行場	平成30年	0	0
	令和元年	78	9,348
	令和2年	17	1,525
	令和3年	0	0
	令和4年	0	0
	令和5年	4	13
平良出張所 (宮古空港) ○非検疫飛行場	平成30年	4	375
	令和元年	0	0
	令和2年	0	0
	令和3年	0	0
	令和4年	0	0
	令和5年	0	0

那覇検疫所管内の航空機検疫の実績は、LCC航空の普及や観光立国としての誘致により、平成31年(令和元年)までは増加傾向となっていたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、令和2年3月より海外からの航空旅客機は特定の飛行場(令和2年3月時点では、成田空港・羽田空港・関西空港の3カ所)に集約されたことから、那覇検疫所管内全ての国際線定期便が運休となった。

当該運休は令和4年8月まで続き、その間、検疫の対象となった航空機は、海外活動を終え帰国のために運航される自衛隊機、外航船舶における救難活動のため患者搬送を行う海上保安庁の機体、ビジネス運航に伴うプライベート機等に限定された。このため、航空機数及び検疫人員は令和2年から令和3年にかけて大幅に減少したが、令和4年の国際定期便再開以降は増加に転じている。

(6) 予防接種（申請業務）実施件数

黄熱予防接種に係る実施件数（平成30年～令和5年）

検疫所名	年	実施件数
那覇検疫所	平成30年	218
	令和元年	143
那覇空港検疫所支所	令和2年	42
	令和3年	20
	令和4年	41
	令和5年	59

那覇空港検疫所支所においては、黄熱ワクチン接種の推奨国へ渡航予定の者を対象に、月一回、黄熱の予防接種を実施している。海外への観光やビジネスを目的とした渡航者の増加に伴い実施件数は増加し、平成30年については、数年毎に開催される国際イベントへ参加等により年間200件を突破することとなった。新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で令和2年に大幅な減少があったものの、令和4年の国際定期便再開以降は増加に転じている。

なお、令和2年8月以降は、沖縄県南部医療センター・こども医療センターの施設を借用し、検疫所職員を派遣する方式で実施する巡回診療対応に変更している。

○ 衛生業務実績

(1) 船舶に対する衛生検査（申請業務）実施件数

船舶の衛生検査実施件数（平成30年～令和5年）

検疫所名	年	衛生検査船舶(隻)	証明書交付数
那覇検疫所 (那覇港)	平成30年	14	14
	令和元年	16	16
	令和2年	11	11
	令和3年	9	9
	令和4年	13	13
	令和5年	14	14
金武・中城出張所 (金武中城港)	平成30年	4	4
	令和元年	3	3
	令和2年	4	4
	令和3年	5	5
	令和4年	4	4
	令和5年	4	4
石垣出張所 (石垣港)	平成30年	-	-
	令和元年	-	-
	令和2年	-	-
	令和3年	-	-
	令和4年	-	-
	令和5年	-	-
平良出張所 (平良港)	平成30年	-	-
	令和元年	-	-
	令和2年	-	-
	令和3年	-	-
	令和4年	-	-
	令和5年	-	-

那覇検疫所管内における船舶衛生検査件数の内訳については、那覇港では主に定期航路で台湾と那覇を結ぶ外航貨物船及び水産庁に備船される漁業取締船であり、金武・中城出張所においては主に発電所へ荷物を運ぶタンカー及び石炭船である。

(2) 政令区域ねずみ族調査実施件数及び捕獲数 (平成30年～令和5年)

検疫所名	年	調査区数 (延)	捕そ器数 (延)	ドブ ネズミ (匹)	クマ ネズミ (匹)	ハツカ ネズミ (匹)	計 (匹)
那覇検疫所 (那覇港)	平成30年	10	200	3	2	－	5
	令和元年	12	240	8	－	－	8
	令和2年	6	120	1	－	－	1
	令和3年	12	240	6	2	－	8
	令和4年	12	240	5	4	－	9
	令和5年	13	270	7	5	－	12
金武・中城 出張所 (金武中城港)	平成30年	6	100	－	－	－	0
	令和元年	9	180	－	－	－	0
	令和2年	7	140	－	3	－	3
	令和3年	9	180	－	2	－	2
	令和4年	9	180	－	－	－	0
	令和5年	10	200	－	2	－	2
那覇空港 検疫所支所 (那覇空港)	平成30年	15	300	0	－	14	14
	令和元年	15	300	－	12	20	32
	令和2年	8	160	－	10	4	14
	令和3年	10	200	－	9	9	18
	令和4年	10	200	－	19	12	31
	令和5年	16	320	－	18	7	25
石垣出張所 (石垣港)	平成30年	5	100	1	1	－	3
	令和元年	5	100	1	7	－	8
	令和2年	10	200	8	－	－	8
	令和3年	6	120	1	5	－	6
	令和4年	3	80	－	3	－	3
	令和5年	5	400	－	－	－	0
平良出張所 (平良港)	平成30年	2	40	－	－	－	0
	令和元年	6	120	－	－	－	0
	令和2年	6	120	1	7	－	8
	令和3年	6	120	5	11	－	6
	令和4年	6	120	－	3	2	5
	令和5年	6	120	13	8	－	21

感染症を媒介するねずみ族の生息状況の確認及び捕獲した個体の検査のため、港及び空港の政令で定められた区域において、ねずみ族調査を実施している。那覇検疫所管内においては、ペスト等の病原体を保有したねずみは確認されていないものの、毎年ねずみが捕獲されている。今後も継続して調査を行い、ねずみ族の生息状況及び感染症侵入の有無を確認していく必要がある。

(3) 政令区域蚊族調査実施件数（平成30年～令和5年）

検疫所名	年	調査区数 (延)	ヒトスジ シマカ (匹)	ネットイ イエカ (匹)	コガタ アカイエカ (匹)	その他 (匹)	合計 (匹)
那覇検疫所 (那覇港)	平成30年	15	11	288	-	-	299
	令和元年	12	62	41	-	7 (ヨツボシイエカ)	110
	令和2年	12	28	70	58	-	156
	令和3年	12	42	180	20	4 (ヨツボシイエカ)	246
	令和4年	12	75	440	-	11 (ヨツボシイエカ)	526
	令和5年	13	35	145	1	-	181
金武・中城 出張所 (金武中城港)	平成30年	6	93	48	10	74 (ヨツボシイエカ他2種)	225
	令和元年	9	18	105	42	9 (ヨツボシイエカ他4種)	174
	令和2年	9	7	16	4	-	27
	令和3年	9	19	65	30	37 (ヨツボシイエカ他3種)	151
	令和4年	9	6	45	-	625 (ヨツボシイエカ他2種)	676
	令和5年	10	32	38	164	1332 (ヨツボシイエカ他1種)	1566
那覇空港 検疫所支所 (那覇空港)	平成30年	17	2	26	2	-	30
	令和元年	18	3	27	2	-	32
	令和2年	11	2	10	4	28 (ネイロヤブカ他1種)	44
	令和3年	10	-	10	5	-	15
	令和4年	10	4	3	-	9 (カタシロカ他2種)	50
	令和5年	15	-	60	-	-	60
石垣出張所 (石垣港)	平成30年	24	66	165	66	1 (オオクロヤブカ)	298
	令和元	25	126	198	4	-	328
	令和2年	24	76	357	2	4 (オオクロヤブカ)	439
	令和3年	24	83	541	3	2 (オオクロヤブカ他1種)	629
	令和4年	20	313	140	2	1 (ヨツボシイエカ)	456
	令和5年	16	101	273	0	2 (オオクロヤブカ)	376
平良出張所 (平良港)	平成30年	2	1	-	-	-	1
	令和元年	6	174	18	-	1	193
	令和2年	6	117	11	-	8 (オオクロヤブカ他2種)	136
	令和3年	6	82	22	8	2 (オオクロヤブカ)	114
	令和4年	6	28	14	-	2 (オオクロヤブカ他1種)	44
	令和5年	6	136	6	-	4 (オオクロヤブカ他1種)	146

感染症を媒介する蚊族の生息状況の確認及び捕獲した個体の検査のため、港及び空港の政令で定められた区域において、蚊族の調査を実施している。那覇検疫所管内においては、ヒトスジシマカをはじめ数種の蚊が捕獲されているものの、デング熱等の病原体の検出はない。また、デング熱の媒介種であるネッタイシマカの捕獲はないものの、亜熱帯気候に属する沖縄では海外から侵入すると定着する可能性があるため、調査を継続して早期発見につとめるとともに、病原体保有状況の確認を行う必要がある。

#### (4) 輸入動物の届出件数

平成20年以後における届出実績はありません。

○ 食品監視業務実績

(1) 那覇検疫所食品監視課実績

表1 年度別の届出・検査・違反状況(港)

年度	那覇検疫所							全国	
	届出 件数	対前 年比	輸入 重量	検査 総数	割合 (注)	違 反 件 数	割合 (注)	届出 件数	輸入 重量
	件	%	トン	件	%	件	%	件	トン
平成30年 (2018)	8,993	102.9	138,220	1,850	20.6	5	0.1	2,482,623	34,172,567
令和元年 (2019)	9,147	101.7	141,548	1,883	20.6	2	0.0	2,544,674	33,272,955
令和2年 (2020)	9,215	100.7	127,502	1,714	18.6	1	0.0	2,352,082	31,064,063
令和3年 (2021)	8,053	87.4	133,306	1,741	21.6	4	0.0	2,455,182	31,627,360
令和4年 (2022)	9,189	114.1	147,113	1,928	21.0	8	0.1	2,400,309	31,918,658

(注)届出件数に対する割合(小数点以下第2位を四捨五入)

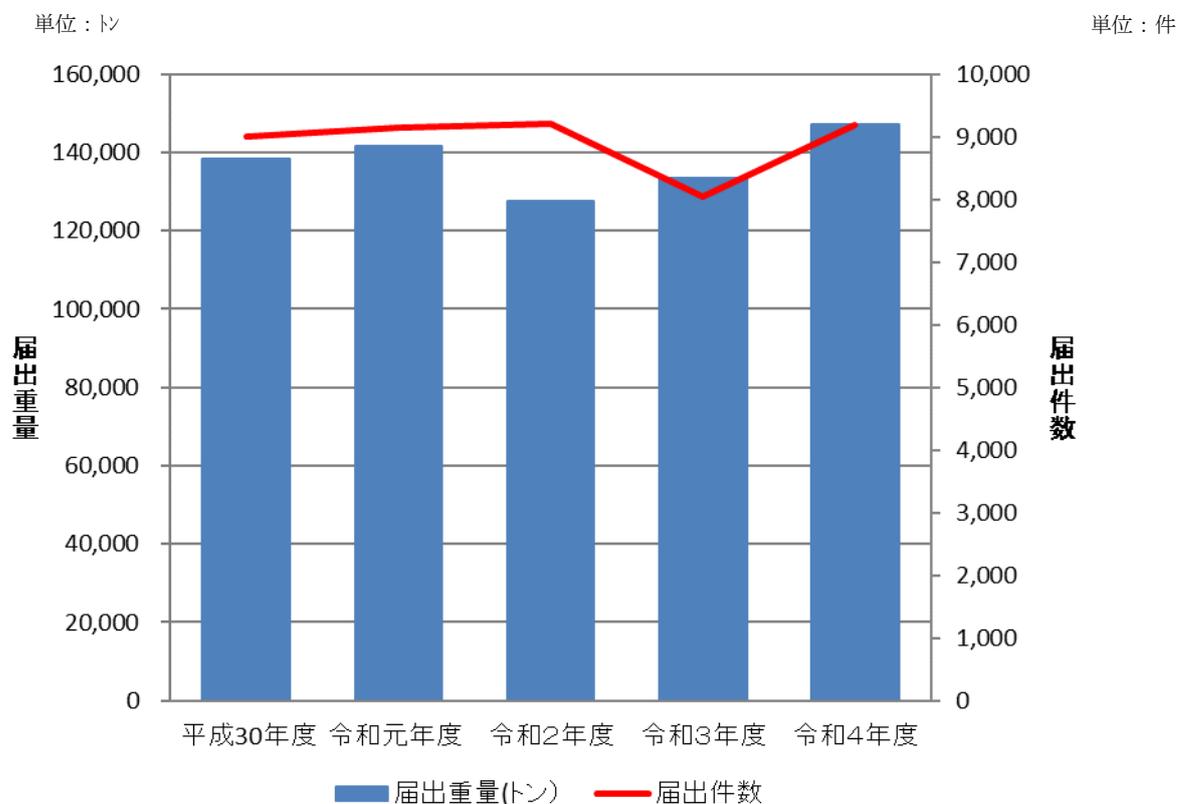


図1 直近5年間の輸入届出件数・数量の推移

那覇検疫所における届出件数は、令和3年度において大幅に減少したが、令和4年度において例年並みとなった。また、届出重量については、令和2年度に大幅な減少が見られたが、令和3年度から令和4年度にかけて増加した。令和4年度の輸入件数は農産食品、畜産食品が増加し、食品用器具は大幅に増加した。特に食品用器具が大幅に増加した原因として、特定の輸入者が少量多品目を輸入したためである。

表2 令和4年度 食品衛生法違反事例

条文	品名	輸出国	検査項目	検出値	備考
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
6	粉末ココア	ベトナム	成分規格 (大腸菌群、生菌数)	大腸菌群陽性 生菌数 1.4× 10 <sup>5</sup> /g	自主検査
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
6	その他のうるち精米	タイ	カビの発生及び異臭を認めた		行政検査
13	加熱後摂取冷凍食品(未加熱):さといも	中国	パクロブトラゾール	0.02ppm	自主検査

令和4年度における食品衛生法違反事例は8例であり、詳細は表2に示したとおり、第6条（食品の腐敗、変敗）で6件、第13条（食品の規格基準違反）で2件となっている。

表3 輸入食品相談指導室における輸入相談実績

	令和2年度	令和2年度	令和3年度
輸入相談実施件数	133	133	122
品目別輸入相談件数	359	359	305
品目別違反該当件数	16	16	11

過去3年（令和元年度～令和3年度）における相談件数は上記のとおりとなり、令和2年度に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、減少していたが、令和4年度は増加に転じている。

表4 令和3年度輸入相談における条文別違反該当件数

条文	違反該当件数 (件)	構成比 (%)	主な違反内容
第6条	0	—	
第10条	0	—	
第12条	5	41.67	ニコチンアミドヌクレオキシドキナーゼ、酸化亜鉛 (2件)、硫酸マンガンの使用 (健康食品) ブラウンHT(キャンディー)
第13条	7	58.33	添加物の使用基準違反 ステアロイル乳酸ナトリウムの対象外使用 (チョコレート菓子の植物性クリーム:4種類) 硫酸銅、ビオチンの対象外使用(健康食品) プロピレングリコールの過量使用 (清涼飲料水のシロップ)
第18条	0	—	
計	12(延数) 12(実数)		

那覇検疫所における令和4年度輸入相談の条文別違反該当件数は上記のとおり、第12条(指定外添加物の使用)で5件、第13条(添加物の使用基準違反)の7件、合計12件(延数)となっている。

(2) 那覇空港検疫所支所 検疫衛生・食品監視課実績

表1 年度別の届出・検査・違反状況(那覇空港)

年度	届出件数	届出重量 (トン)	検査件数	モニタリング 検査件数	違反件数
平成30年度	733	317	138	35 (1,297)	1
令和元年度	742	388	165	43 (1,333)	1
令和2年度	276	150	73	52 (1,338)	0
令和3年度	316	183	71	38 (1,342)	0
令和4年度	171	37	44	37 (1,353)	1

モニタリング検査件数の( )は、計画件数

単位：ト

単位：件

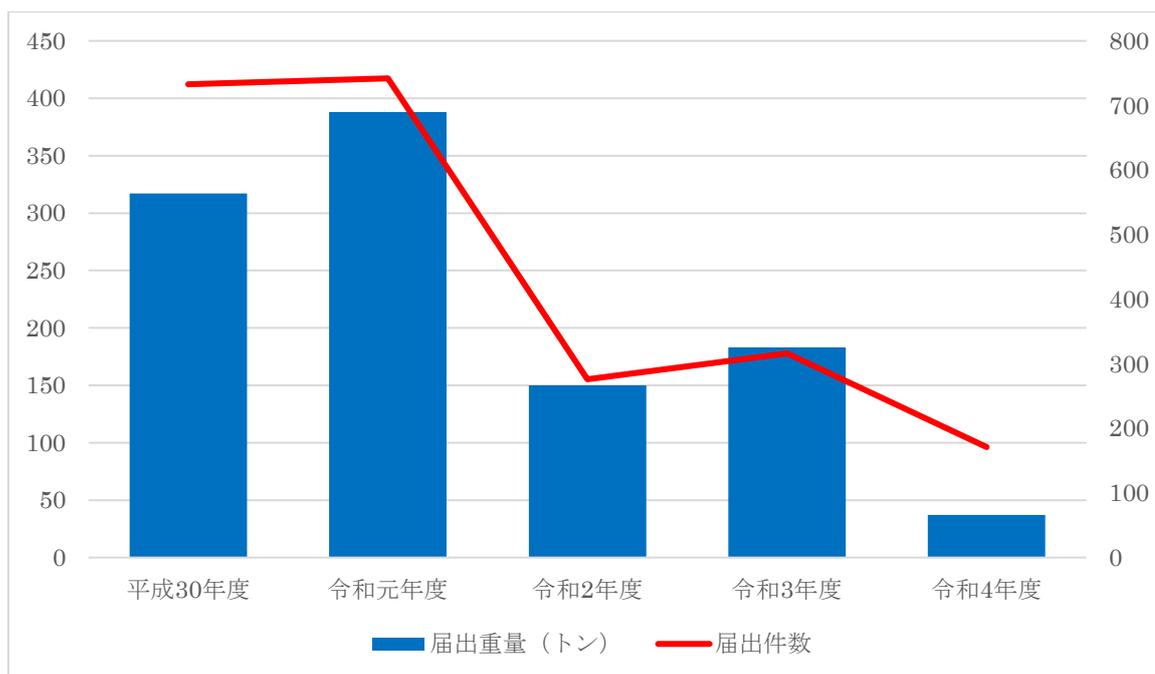


図1 直近5年間の輸入届出件数・数量の推移

那覇空港検疫所支所における直近5年間の輸入食品等の届出重量（トン）の推移については、令和元年度が多く、主に水産食品類、農産加工食品類の輸入重量の差による増加である。また、令和2年度より新型コロナウイルス感染症の影響により国際線貨物便の大幅な減少や旅客便の運休があったため、届出件数、重量ともに大幅に減少した。さらに令和4年度については継続的に輸入のあった水産食品類の届出も減少したため、届出件数、重量ともに直近5年間で最も少ない年となった。

なお、令和4年度における食品衛生法違反事例は1例であり、詳細は以下のとおりである。

表2 令和4年度 食品衛生法違反事例

条文	品名	輸出国	検査項目	検出値	備考
6	ピスタチオナッツペースト	ハンガリー	総アフラトキシン	18 μg/kg	自主検査